

# かたの 寺社巡り

ノルディックで  
指定文化財を歩く

- 9 -



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウォーク」を11月(終了)・30年3月に開催します。それぞれのコースで見ることができる文化財について、連載しています。

今月は、獅子窟寺と国宝の薬師如来坐像を紹介いたします。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



## 獅子窟寺

獅子窟寺は、山号を普見山(普賢山)といい、真言宗高野山派の寺院です。

「獅子窟寺縁起」など後世の文献によると、役小角がこの地で修行をしたことが始まりです。その後、聖武天皇の勅願で、僧の行基が堂塔を建てて創建し、天長年間(824~834年)には、空海が寺の名前の由来となる獅子窟で修行したと伝えられています。

「獅子窟寺縁起」は、その奥書から東寺の僧である真海が、獅子窟寺にたびたび参詣して写したものであると分かります。

また、この寺は皇室との関係が深い寺院で、後白河院や亀山院も参詣したといわれています。さらに、「新後撰和歌集」には、静仁法親王(土御門天皇の皇子)と、当時の住僧であったと考えられる権僧正・教範との和歌のやり取りが残されています。

その後、戦国時代を経て寺勢が衰えましたが、17世紀中ごろに光影律師によって再興されました。延宝7年(1679年)刊行の「河内鑑名所記」には、再興後の獅子窟寺の様子が「されいにして殊勝、景おもしろき所なり」と称賛されています。



「河内鑑名所記」獅子窟寺境内図



「獅子窟寺縁起」東寺百合文書 京都府立京都学・歴史館 WEBより



## 木造薬師如来坐像

薬師如来坐像(上写真)は、平安時代初期の作で、獅子窟寺の薬師堂の本尊として安置されています。

この像は、主要部をカヤ材から彫った一木造りで、目や体部は漆箔仕上げが施されており、右手は施無畏印を結び、左手は胸の前で宝珠を持つ形となっています。また、体から両膝に向かって流れるように掘り出した衣文、足先まで衣で包むなどの特徴があります。

### おわびと訂正

広報かたの11月号「郡津丸山古墳と極楽寺」の記事で、地名に誤りがありました。おわびし、訂正いたします。(誤)本塚 (正)大塚

## 豆知識

### 王の墓

亀山院が病の際、獅子窟寺に行幸して薬師如来に祈願し、無事回復したと伝えられています。これに感謝した亀山院は寺を再建し、寺領を寄進したとされています。

現在も、寺の西北にある「百重が原」には、二つの石塔が現存しています。これらは「王の墓」と呼ばれ、獅子窟寺が亀山院とその皇后の供養のために建てたものと考えられています。



王の墓

